平成３０年度　大阪府立刀根山支援学校第１回学校運営協議会議事録

日　時　平成３０年6月２５日（月）　１５：００～１６：３０
場　所　本校　会議室
出席者（敬称略）
　委員　井村　修（大阪大学大学院人間科学研究科　教授）（欠席）
　　川上　麻衣（大阪府立刀根山支援学校　保護者代表）
　　齊藤　利雄（独立行政法人国立病院機構刀根山病院　神経内科医長）
　　高畠　俊英（豊中市教育委員会児童生徒課　主幹（支援教育担当）（欠席）
　　平賀　健太郎（大阪教育大学教育学部　准教授）
　　山田　亨　（学校法人大阪滋慶学園　教育顧問）

　事務局　校長　中村　昌子、教頭　山口　守・朝重　浩一、事務長　松葉　典明
　　首席　三澤　誠一・伊藤　誠・船木　雄太郎、指導教諭　入江　慶子
　　本校教育部長　宮本　恵（欠席）、訪問教育部長　高島　理絵、精神医療
　　センター分教室長　船木　雄太郎、大阪大学医学部附属病院分教室長
　　内田　浩文、関西医科大学附属滝井病院分教室長　佐竹　正世
　　関西医科大学附属枚方病院分教室長　奥野　久美子

１　学校長挨拶
２　大阪府立刀根山支援学校　学校運営協議会　要項
（実施要項資料について変更点等、資料に沿って、中村校長より説明。）
中村　　学校協議会→学校運営協議会
　　最も大きな変更点は、学校の運営に関する方針について、委員から承認していただく、という点。（その他変更点は資料通り）
３　委員紹介
４　事務局員紹介
５　平成 30 年度　会長・副会長の選出
（委員長：井村氏、副委員長：山田氏に決定）
６　協議事項　平成 30 年度　学校経営計画について
中村　　本年度の取組内容
　　⑴ 授業力の向上。学習指導要領の改訂が進んでいる。「主体的で対話的で深い学び」とは子どもたちにどのような学習が必要なのかを考えていきたい。
　　⑵ 防災計画などをできるだけ早く修正していきたい。何よりも一番は、子どもの安全。地域の学校、福祉、病院等とのやり取りを丁寧に進めていく。
　　⑶ 病院によって病種が異なるので、どのような行事が良いのか、考えていく。

経験の短い教員にベテラン教員が教授し、授業力や専門性の向上を図る。

⑷ どの中学校でも、原籍校と連携して成績をつけることが求められている。病院と連携して、診療科目を中心にセミナーを開いている。

⑸ １ つの学校として、分掌の役割をより大切にしていかねばならない。横断的に進めていくことで、学校として向上を目指す。

委員　取組内容⑴の中で校長が最も力を入れたいと考えていることは？

中村　まずは教育課程の見直し、そのために教務部が中心となって教科会を強化する。

委員　取組内容⑵子どもの安全について、先週の大阪府北部地震の本校の被害は？

奥野　枚方は子どもたちが驚いていたくらいで、ものが落ちるなどの被害は特になし。

佐竹　教室の上のものが落下したが、子どもたちが自主的に片付けていた。

内田　阪大は中学部の建物に縦の亀裂が入り、表面のモルタルが剥がれ落ちた。余震の恐れがある間は中学部を封鎖し、小学生と一緒に活動する。

高島　訪問は、国立循環器病センターに入院している子どもが一旦転院したり自宅に戻ったりして、混乱していた。子どもの直接的な被害はなかった。

船木　中宮は教室の建物にうっすらひびが入っていた。外壁が崩れている箇所があり、病院が応急処置を進めている。子どもが特に夜間の余震の度に怯えていた。

三澤　校舎の被害はなかったが、家のエレベーター停止により登校不可の生徒がいた。

委員　子ども（本校生徒）は初めて体験する大きな地震だったので、恐怖感も大きかったようだ。いざというときの避難経路を考え直すなど、防災意識が高まった。

委員　今まさに地震が起きたら、本校はどのような対応か？

三澤　揺れが収まるまで子どもの安全確保の後、教員ができる限り電源を落とし、管理職の放送の指示に従って、駐車場に避難する。教員同士声をかけ合って、子どもの安全確保の術を第一に考える。

委員　子どもが２階にいる場合はエレベーターを使って避難するのか？

三澤　エレベーターは使わず、車椅子から下ろして、担架や簡易担架を使って階段で下ろす訓練をしている。２階の体育館から外に出るルートで避難する可能性もある。

委員　⑵と⑷で、一般的に「前籍校」は転籍する前の学校、「原籍校」は転籍していないことも含めて、入院する前の学校のことを表す。本校に籍を移した子どもをサポートするのであれば「前」、転籍していなくてもサポートすることがあるという学校の方針ならば「原」で良いと思うが、区別をし、統一したほうが良い。

中村　基本は籍を移すので「前」だが、使い方が難しい。今後検討する。

委員　昨年、転籍してしまうと、前の学校の支援員が抜けてしまい、前の学校に戻れないので、籍を移せないというケースがあった。長期入院していたが、転籍していないので、教員とかかわりをもてなかった。

中村　転籍せずに教育することはできないので、スムーズに戻れるようにしていきたい。

（今年度の学校経営計画承認）

７　報告・連絡

（1）学校行事紹介

三澤　校外学習　学年関係なく校外学習に行く。今回初めて車椅子が乗車できる大型バスをチャーターした。

修学旅行　新幹線の座席にベルトで体を固定し２泊３日横浜方面へ、ランドマークタワー、シーパラダイス、中華街に行った。

パソコン交流会　休日に外部や卒業生を招き、生徒がプログラミングして作ったゲームで交流した。本校生徒にとってパソコンは社会と繋がる大事なツール。コミュニケーション、人間関係を深める体験。

行事は常に卒業後、将来を見据えてのキャリアを大切にしている。

（2）本校の２教育部４分教室について

三澤　（本校教育部）在籍数は年々減少傾向にある。

高島　（訪問教育部）いろいろな病気の子どもがいる。新規の病院からの依頼もあり、教科の勉強に力を入れている子ども、重度の知的障害の子どもなど様々なので、子どもの実情をよく見て地元校との連携を丁寧に取りながら、授業を行っている。

船木　（大阪精神医療センター分教室）家庭の問題や虐待を受けた子どもが非常に多く、気持ちのコントロール、言語化ができない。元々前籍校で不登校の子どもが多く、昨年の調査で、半分くらいは再度不登校になっているという実態がわかった。

内田　（大阪大学医学部附属病院分教室）入院期間は短期長期と非常に様々である。日々の中では、休み時間や朝の会、教員と一緒にゲームをして楽しんでいる。

佐竹　（関西医科大学総合医療センター分教室）不登校の期間も長く、自己肯定感が低い。北海道大学附属の院内学級とインターネット回線でテレビ会議などの交流をしている。定期考査地元校から試験問題をもらって、実施するのが中心。

奥野　（関西医科大学附属病院分教室）昨年度から支援学校前籍の子どもが増えてきた。支援学校前籍の子どもたちにも、できる学習内容を模索しながら行っている。

（3）授業アンケートの結果について

山口　母数が非常に低く、１つの回答に左右されやすい。教員の頑張りと、１対１の対応が多いことも影響しているだろう。今年度の実施対象は２学期在籍の子ども。

（4）教科書選定について

山口　資料等はないが、今現在選定作業中。第２回で採択結果を伝える。

委員　支援学校は外部から見にくい部分もある。見学があれば、理解が深まるのではないか。昨年滝井セミナーに初めて参加し、障がいのある子どもはどこにでもいるので、橋渡しができれば良いのにと感じた。本校教育部以外の各分教室も見たい。

８　その他

朝重　第２回、第３回の日程確認。以上で第１回刀根山支援学校運営協議会終了。

中村　子どもたちが笑顔いっぱいの学校、笑顔いっぱいの協議会にしていきたい。